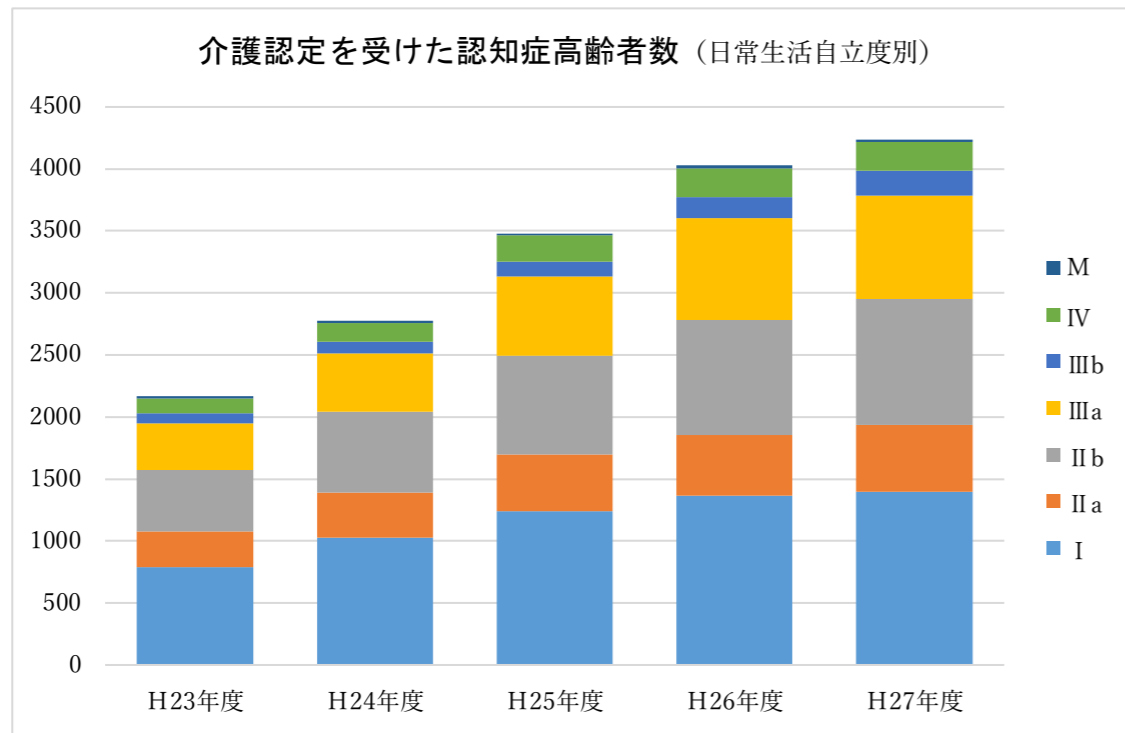


A) 認知症高齢者の日常生活自立度の経年推移

		H23	H24	H25	H26	H27
I	自立	742	822	958	1178	1280
	何らかの認知症を有するが、日常生活に必要な意思疎通はできる。ほぼ自立している。	786	1027	1238	1364	1394
II a	日常生活に必要な意思疎通の困難さが多少みられる（家庭外でみられる）が、誰かが注意していれば自立できる。	291	362	459	488	541
II b	日常生活に必要な意思疎通の困難さが多少みられる（家庭内でみられる）が、誰かが注意していれば自立できる。	495	652	798	932	1019
III a	日常生活に必要な意思疎通の困難さがみられる（日中を中心に症状がみられる）着替え、食事、排泄などの介護が必要な状態	379	469	641	820	832
	日常生活に必要な意思疎通の困難さがみられる（夜間を中心に症状がみられる）着替え、食事、排泄などの介護が必要な状態	77	96	119	169	201
IV	日常生活に必要な意思疎通の困難さが頻繁にみられる。常に介護が必要な状態	122	153	209	234	231
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、日常生活に必要な意思疎通ができない、または、まれにしかできない。在宅での生活ができず、専門医療の必要な状態	15	15	15	25	19

B) 認知症高齢者の日常生活自立度別にグラフにすると (Aのデータをグラフに)



C) 介護認定と認知症高齢者の日常生活自立度

	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
要支援 1	■	■	■					
要支援 2	■	■	■					
要介護 1	■	■	■					
要介護 2	■	■	■					
要介護 3								
要介護 4								
要介護 5								

認知症に関して、地域でも注意していれば、自立可能

D) 地域の見守りや支援、注意をしていけば、自立可能な介護認定を受けた高齢者を表の色分けしたところと仮定し、グラフにすると

